



始まりの一步 ～ 思いやりの声が飛び交う ～

4月6日、桜の花びらが舞う春の日に、始業式そして入学式が行われました。入学式点呼では、入学生27人の背をまっすぐに伸ばした姿勢に「今日から和光中学校で頑張ろう」という意気込みを感じました。さて、和光中学校教育理念「われらみな人の世の光とならん」のもと、皆さんがどのような「始まりの一步」を踏み出したのか、振り返ってみましょう。はじめに、始業式で2・3年生に次のような言葉を伝えました。



・・・さて、みなさんは、今年度一年間をどのような年にしようと考えていますか。

私は、皆さんの誰もが、「和光中学校で過ごす毎日が楽しい、明日もまた学校へ来るのが楽しみだ」と心から思えることが、何よりも大事だと思っています。さて、そのためには、いったい何が必要なのでしょう。それは「漢字1字」で表すことができます。先ほど、「自分が楽しい」とは言わず、「皆さんの誰もが」と言ったところにヒントがあります。・・・それは、和光中の『和』です。この「和」には、「互いに相手を大切に思い、助け合う」という意味があります。「生徒も先生もみんなが楽しいと思える学校」になるためには、何よりも人間同士の「和」が大切です。

当たり前のことですが、ここにいる生徒も先生も一年前の今日から一つ歳をとりました。この一年間、楽しいことばかりではなかったはず。苦しくても歯を食いしばって、あきらめずにがんばり抜いて今ここにいるはず。そんな日々があったからこそ、今まで以上に人の痛みを理解し、周りの人を思いやり、心配りができる人に成長しているのです。人を大切にしない人の周りには、人は寄ってきません。誰からも大切にされません。今日の午後から新入生27名が、この和光中学校に加わります。和光中学校に入学して良かったと感じてもらうためには、ここにいる2年生、3年生の行いが最も大事であることを最後に付け加えておきます。

「いいチーム」でなければ、いい仕事はできません。私たち教職員もがんばります。昨年度以上に「いいチーム」になるために、2・3年生の努力に期待し、1学期始業式の式辞とします。

それから数日後の4月11日朝、全校集会で次のことを伝えました。

「相手を思いやる心は、声に出すことで初めて相手に伝わる。『おはよう』『ありがとう』『助かった』『大丈夫』こんな言葉が飛び交う学校こそが、誰もが安心して過ごすことができる楽しい学校。世の中では言い過ぎたりやり過ぎたりしたら周囲からやめろと叱られる。でも、挨拶やありがとうを何度言っても『なんで挨拶なんかするんや』とか『ありがとうと言われたら腹が立つ、黙れ!』などと言われることはまずない。挨拶やありがとうは『幸せの始まり』だから。」

それから今日までの一週間、登校時の挨拶が変わってきました。相手の目を見て、自分から先に声をかける生徒が確実に増えてきました。「打てば響く(意味:働きかけると、その分だけ成果を挙げる)人達だと実感しました。皆さんのこれからの成長がますます楽しみになってきました。



〔生徒玄関に掲げた合い言葉〕